

人とつながる喜びを味わう

目的

児童一人ひとりの自尊感情（セルフエスティーム）の状況や学級内での自己や他者に対する肯定感の実態を把握するための一つの方策として、本校では、年間2回、質問紙調査（QUテスト）を実施している。その結果を分析してみると、それぞれの学級で若干の違いはあるものの、全体的に見て、親和的な良好な人間関係の実態をとらえることができる。

しかし、すべての児童が他者肯定、自己肯定に位置するわけではなく、今後とも、聞き取り調査も頻りに実施しながら、注意深く実態をとらえていかなければならない学級も存在する。

そこで、これまでと同様、ふれあい班活動（異学年、縦割り活動）を充実させ、様々な体験活動を通して、よりよい「なかまづくり」、「人間関係づくり」をめざしたい。そして、児童一人ひとりの自尊感情をさらに高め、予防的・積極的生徒指導の推進を図っていききたい。

内容

● 具体的な実践事例① 「屋島集団宿泊学習」 〈2011. 8. 31～ 9. 1 実施〉

参加児童： 4、5、6年生（ふれあい班活動）

- 主な活動：
- ・いかだづくり
 - ・野外炊事
 - ・キャンプファイアー

集団宿泊学習のもっとも重要なめあては、児童一人ひとりが、集団の中で、自分の役割や責任を果たすとともに、集団活動において協力し合う過程で、互いの理解が深まり人間関係が結ばれ豊かに広がっていくことである。〔生徒指導提要より一部引用〕

それぞれの活動に際して、一人ひとりの役割を明確にし、取り組ませることや、特に、6年生児童には、リーダーシップを発揮する場であることの意識付けをおこなった。



● 具体的な実践事例② 「ふれあい遠足」 〈2011. 10. 19 実施〉

参加児童： 全校児童（ふれあい班活動）

行程： 安田小学校 ～ 寒霞溪（往復約16km）

異学年との関わりは、他者（他学年）との関わりを学び、社会的スキルを身に付けさせるための効果的な体験活動の場として位置づけることができる。高学年児童は、低学年児童を思いやり、低学年児童は、高学年児童に対して感謝の思いを抱くことで、望ましい人間関係を形成する力が高まるのである。



成果

本校では、年間2回、各学年団ごとに「ふれあい集会」を開催し、グループエンカウンターやソーシャルスキル学習にも取り組んでいる。このような様々な取り組みが、校内外における問題行動の発生件数やいじめ事案の減少、不登校児童及び不登校傾向を示す児童の発生を食い止めるための一助となっている。